

ポスター発表

[P-29-58_61] Poster session

Fri. Mar 29, 2019 9:00 AM - 3:30 PM ポスター会場・展示 (大教室)

[P29-61] ビタミン B6添加における卵殻色への影響

○福澤 友夏, 吉田 達行, 古田 洋樹 (日獣生科大)

【目的】鶏の褐色卵殻色素はプロトポルフィリンに由来する。プロトポルフィリンの前駆体であるデルタアミノレブリン酸 (ALA) はグリシンとスクシニル CoAの縮合反応である ALAシクターゼ (ALAS) により生じる。その後、コプロポルフィリノーゲンを経てプロトポルフィリンを合成する。ビタミン B6は ALASの補酵素として働くとされている。また、養鶏業界では加齢による褐色卵殻色素の退色が問題となっている。そこで、24ヶ月齢を越えた鶏へのビタミン B6添加による卵殻色の変化を検討した。【方法】供試鶏として24~30ヶ月齢のロードアイランドレッド11羽を用いた。対象区：配合飼料を毎朝90g給餌した。産出された卵は洗浄し、割卵した。その後卵殻を24時間乾燥させ、卵殻色の L値, a値, b値を分光測色計で測定した。添加区：4.0mg, 40mgのビタミン B6をそれぞれ配合飼料90gに添加し、対象区と同様に給餌した。産出された卵も対象区と同様に卵殻色を測定した。【結果】ビタミン B6の4.0mg, 40mg添加区の産卵率は対象区と比べ有意な差は認められなかった ($p>0.05$)。卵殻の色素測定値の白色から黒 (明るさ) を示す L値は対象区に比べ低下する傾向にあった。赤色から緑色を示す a値, 黄色から青色を示す b値は増加する傾向にあった。しかし、L値, a値, b値ともに有意差は認められなかった ($p>0.05$)。